

北海道バイオ産業クラスターフォーラム設立

北海道の強みを活かし、バイオによる食・農・健康のイノベーション創出

道内バイオ産業の連携促進や販路開拓等を目的として、北海道に集積しているバイオ関連企業131社が参画。2011年には欧州委員会の報告書の中で「成熟段階のクラスター」と評価されるまでに成長

文科省事業 さっぽろバイオクラスター“Bio-S”

「北海道を健康科学産業の基地に」= 食品の機能性評価の基盤整備

北海道情報大学健康情報科学研究センターが食の臨床試験システム「江別モデル」スタート。江別市、北海道情報大学、地域ボランティア、医療機関、民間企業等が連携して、臨床試験の計画・実施からデータ解析までをワンストップで行う。



北海道認定

北海道食品機能性表示制度 (愛称：ヘルシーDo) 施行

全国初の自治体認定による食品機能性表示制度誕生

フード特区の規制緩和要望から実現。北海道庁と、それまで北海道バイオ産業クラスターフォーラムの事務局として活動してきたノーステック財団、業界団体として食品機能性表示に関する知見を蓄積していた北海道バイオ工業会、全国で唯一「バイオ」を関した経済産業省北海道経済産業局地域経済部バイオ産業課が連携・協力し、北海道経済連合会など経済界の後押しを得て設立。

2001

北海道スーパークラスター振興戦略

2002

経済産業省の取り組みで産業クラスター形成→北海道は「バイオ」

国が推進する産業クラスター計画に則って、北海道に集積するバイオ技術と人材、バイオの応用発展性の高い農業・食品産業や技術ポテンシャルの高い医療などの関連産業の存在から「バイオ産業クラスター」形成を準備

2006

一般社団法人北海道バイオ工業会設立

2007

補助金なしで政策の受皿となる団体の必要性

北海道バイオ産業クラスターを受け継ぐ業界団体として設立。食品機能性表示の規制緩和について要望書を提出するなど関連機関と連携して活動する全国でも珍しい「バイオ」に特化した業界団体。



北海道バイオ工業会

2010

食クラスター連携協議体発足

産学官金連携の体制づくり

2012

北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区（フード特区）認定

2013

国への特区におけるの規制の特例措置として食品機能性表示の規制緩和を要望

2015

ヘルシーDo推進協議会発足・美人ランチ開始

認定企業、支援団体、流通業者によるネットワークづくり

ヘルシーDoのプレーヤーが集結してネットワーク化。制度の普及・啓発、販路拡大について話し合い、ヘルシーDoのブランド化を推進。ヘルシーDo製品・素材を使った「美人ランチ」も企画。



2019

認定商品100品目を突破